

令和8年 第9回文教厚生常任委員会会議録

令和8年8月20日 議員控室

○事 件

(1) 所管課報告事項

- ①熊石義務教育学校改修スケジュールの変更について（学校教育課）
- ②常勤医師の確保について（熊石国保病院）
- ③特定技能外国人の入職について（熊石国保病院）

(2) 報告事項についての協議

(3) 所管事務調査

子ども子育て関係事業について

(4) その他

○出席委員（8名）

委員長 横 田 喜世志 君
赤 井 睦 美 君
斎 藤 実 君
倉 地 清 子 君

副委員長 関 口 正 博 君
小 西 雄 一 君
寺 田 広 樹 君
黒 島 竹 満 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（5名）

副議長 宮 本 雅 晴 君
牧 野 仁 君
議長 大久保 建 一 君

水 野 博 美 君
安 藤 辰 行 君

○出席説明員（4名）

教育長 西 田 浩 人 君
施設係長 中 島 翼 君

学校教育課長 三 坂 亮 司 君
国保病院事務長 石 黒 陽 子 君

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（横田喜世志君） それでは、ちょっと時間より早いんですがとなりましたので、第9回文教厚生常任委員会を始めさせていただきます。委員長挨拶とありますが、割愛させていただきます、事件に入っていきたいと思います。

教育長が予定があって30分ほどしか出席できないということなので、あまり深く追及しないようにお願いしたいなと思います。

◎ 所管課報告事項

【学校教育課職員入室】

○委員長（横田喜世志君） それでは、所管課報告事項①熊石義務教育学校改修スケジュールの変更についてを議題といたします。説明をお願いいたします。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（横田喜世志君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） おはようございます。それでは、学校教育課の所管事務の報告をさせていただきますと思います。

過去の本常任委員会でも報告させていただいておりますが、熊石地域では、児童生徒数の減少に伴う中学校の複式学級の解消や教員定数の維持など良好な学習環境と教育の質を確保するため、小中学校、小中9年間の一体的な教育課程とする義務教育学校への移行に向けて準備を進めておりますが、開設に向けた改修スケジュールに変更が生じたため、ご説明させていただきます。

当初の計画では、本年度に老朽化の調査を中心とした改修調査を実施し、熊石小学校、中学校、どちらが新校舎として改修に適しているかを判断した上で、令和9年度に基本設計、実施設計を行い、令和10年度に新校舎とする学校の改修工事を行う予定でございました。

しかし、熊石小学校の老朽化が著しく、本年度に入ってから複数の修繕が必要な故障が発生し、現在応急で対応はしているものの、今後、校舎として使用するには適していないことが判明した次第です。

そのため、当初の計画を見直し、本年度に予定していた老朽化調査を取りやめ、現熊石中学校校舎を義務教育学校の新校舎として活用することとし、令和9年度に予定していた基本設計業務を前倒しして、開校に向けた準備を迅速に進めることとしたところであります。

このことから、当初予算に計上しておりました、熊石中学校大規模改修調査手数料を減額し、本年度にかかる基本実施設計業務委託料を新たに補正予算として計上したいというふうに考えてございますので、ご理解いただきたいと思います。

また、基本設計業務の期間を2カ年とし、9年度に要する委託料については、債務負担行為を設定させていただく予定でございますので、あわせてご了解願います。

なお、改修に伴うスケジュールは変更となりますが、令和10年度の義務教育学校開設には変更はございません。以上、学校教育課の所管事業の説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） 説明が終わりました。質問のある方ございますか。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 改修そのものには賛成。少しでも使えるほうを使っていたほうがいいと思うんですけど、令和 10 年度の時点での児童生徒数を教えてください。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（横田喜世志君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 令和 10 年度時点ですが、小学校で 17 名、中学校が 17 名合わせて 34 名となる見込みです。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 義務教育学校も一時私は勧めてたんですけども、ぜひやったほうがいいという考えだったんですね。

だけれども、17 名、17 名でスタートして、先ほど教育の質を確保するとおっしゃってましたが、小学校は小学校、中学校は中学校でやった場合と、義務教育学校にした場合、その教育の質っていうところでは、どういうところが向上するとか教育の質の確保というところがどういう点を見て、そのようにおっしゃるのかという。

例えば、中学校の先生が数学、算数を小学生にもちゃんと徹底的に教えるとか、そういうことはあると思うんですけども。であれば、小中連携でもやっていけるんじゃないかというそういうのもあったりして、1つの校舎に小学校と中学校が入るという連携もあると思うし、この義務教育学校にして教頭先生が 1 人で済むという利点もあるけれども、その他に子どもたちにとっていいところを教えてください。

○教育長（西田浩人君） 委員長、教育長。

○委員長（横田喜世志君） 教育長。

○教育長（西田浩人君） すみません。ご質問ありがとうございます。まず、教職員の数ということであると、複式の中学校になってしまうと先生が 5 名しか配置されないということになります。

ところが、義務教育学校、または小中学校という形式もあるんですけども、そういう形にすると小学校の先生が中学校に校長の裁量で異動して指導することができるということがございますので。

ですから、例えば先生が 5 人ということを考えると、国語、数学、理科、社会、英語とかですね。基本的にはそのように考えるんですけども、小学校のほうに美術の先生を配置して中学校のほうで指導してもらおうとか、そういうことが可能になる。

また、今お伝えしたのは中学生だけのメリットになるんですけども、小学生のほうもですね、例えば、中学校の英語の先生が小学校の 3 年生から英語の指導にあたるとかですね。そういうことで一体的な教育が保障されるという利点もございます。

また、いろいろと利点を言うと数多くあるんですが、いろんな義務教育学校を経験した先生に聞くと、義務教育学校にはメリットはあるけどデメリットはないみたいな、そんな幸せ

な言葉を使う方もいるんですよね。それが本当かなってというのは、私も疑問は感じています。それは、自分が経験していないからです。

ただ、経験したことのある先生方は一様に義務教育学校の魅力を強く主張しております。そういうことを考えて、八雲町熊石地域としても義務教育学校化に向けて進めていきたいというような考えです。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 生徒が少ないと少ないほど義務教育学校の効果が薄れるのかなという不安はありますけれども、せっかく少数精鋭でやるのであれば、英語ってもう1年生からでもやってますよね、普通にね。義務教育学校じゃなくても。

だから、義務教育学校で先ほどおっしゃったように、英語の先生が3年生から教えるとかって言うのになれば、その熊石義務教育学校に入った子は、本当に英会話が完璧できますとか数学がものすごく得意ですとか、やっぱり少数だからこそ徹底して得意分野をね、生かせるたらいいなと思うので、なんとなく先生も多くなってゆったりできるっていうのもいいけれども、やっぱり特化した教育の特色っていうかそれが別に勉強じゃなくてもスポーツでいいんですよ。

今、全国大会の子がいるようにね。なんでもいいんだけれども、やっぱり義務教育学校にしたから、こんな特性が発揮できてよかったねっていうように、ぜひ平々凡々じゃなく特化したところを作っていただきたいなという願いです。

○教育長（西田浩人君） 委員長、教育長。

○委員長（横田喜世志君） 教育長。

○教育長（西田浩人君） ありがとうございます。今、学習指導要領があと何年か後に変更になりますので、そうすると学校の裁量がさらに増えるということで、学校の判断で思い切ったことができるということです。ぜひ今いただいた意見を参考に新しい学校づくりに向かって進めていきたいと思っています。

○委員長（横田喜世志君） 他にございますか。

○委員（寺田広樹君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 寺田委員。

○委員（寺田広樹君） 義務教育学校の先生、教師の先生の免許。基本的には、小学校の免許と中学校の免許がないといけない。基本的にはですけど、ないといけないというのは目にしたんですけども、そこら辺はどうなんでしょうか。

○教育長（西田浩人君） 委員長、教育長。

○委員長（横田喜世志君） 教育長。

○教育長（西田浩人君） ただいまご発言いただいたようにですね、基本的には、小学校と中学校の両方の免許を持っていなければならないという原則はございます。

ただですね、今の教員の実情をお話しすると、年配の先生方は比較的両方の免許を持たれている方が多いんですけども、今大学の免許取得の関係もございまして、両方の免許をお持ちの教諭が非常に少なくなっております。

それはあの学校サイド、それから教育委員会サイドの問題ではなくて、北海道教育委員会全体の問題になっておりまして、ですからもしかすると、その辺もこの後見直しをしなければならぬような状況がきつと生まれるんじゃないかなと思っております。

また、今小学校の免許がなくても助教諭の免許とかっていうのを申請することができてですね、それに対応することもございます。それで、開設当初は、間違いなく渡島教育局のほうで便宜を図ってくださって、両方免許を持っている先生を配置していただけたと思うんですけども、これがどんどん進んでいくうちにですね、必ずしもそうとは言えない状況が生まれるんじゃないかなということは、若干心配しております。

というのは、今現在、大沼に岳陽学校という義務教育学校がございしますが、そこもすでにそういうような状況がある年もあると聞いておりますので、それはちょっと注意深く見ていきたいなと思っております。

○委員長（横田喜世志君） はい。他。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 教えてください。これから基本設計、実施設計にかかられる熊石中学校を改修することなんですけれども、おおよその改修規模というんですかね、今現在考えられる、これから詳細は出てくるんでしょうけれども、考えておられる改修規模というのがどのくらいなのか。

それと、その財源というものを、どのようなものが充てられるのかということのをちょっと教えていただければありがたいです。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（横田喜世志君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 今、関口委員ご指摘の規模については、正直どれだけの金額がかかるかっていうのはちょっと見えてないところがありますので、調査等基本設計をしながらこのぐらいの規模というので、いくつかのパターンを提案していただくような中身で基本設計を行いたいというふうに考えています。

だいたい標準的な規模でいくと、義務教育学校の理想のかたちにしていくとなると10数億円の規模になるのではないかなということが言われておりますが、そこまでの改修が必要なのか、もしくは学校の使い方。今学校の魅力の話がありましたけど、どういったかたちで使っているかということでは、安価にもできるのではないかなというようなことも、いろんな関係機関だとかいろんなところに聞いた中ではそういうような回答があって、事業規模としては、ちょっとまだ見えてないところがございます。

また、財源ですけれども、文科省の学校改修に関わる補助金等もございしますが、これをした場合、大規模改修事業ということで、かなりもうフルメニューでの長寿命化の事業をしなければいけないということで、かなり高額になってしまうということが想定されています。

その補助金は今使わない計画でございしますが、財政等も調整の中では起債だとかそういったものを使いながら、有効な所管の中で町財政にあまり負担をかけない中で、最大に効果を発揮できる改修をしたいということで、現在、財務サイドとも調整しているところでございます。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 現状の学校建設。まあ、建設費用もこれだけ高騰しているので、費用面というのはやはり注視しなきゃならないから。それで、これからの熊石義務教育学校の在り方も含めて、投資できる金額というものはしっかり精査しなきゃなんない。

今回、改修調査等が省かれたという判断自体は、これは当然総額の減額にはなるんでしょうから賢明な判断であるとは思いますが、今後の熊石義務教育学校の在り方というものもしっかりと考えた中で、町財政としっかりと話ししながら改修規模というものを図っていただきたいなというのがあるんだけど、現状においては、外側ってというのは、まあまあ、今の現状の場合、中身を変えていくという改修工事なんですか。それとも、一部ほぐしてしまって、また新たに建設するというかたちになるんでしょうか。そこをまだわかつてるところがあれば。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（横田喜世志君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） まだ未定なところはございますが、現状では外側については、大きくいじらなくても大丈夫ではないかということを考えています。

また、教室も例えば大きく壁を破って新たに教室を作るだとか、そういった工事はしなくても現在の熊石中学校の保有している教室数、そういったものを勘案すると、使い方の工夫だとかで、現状のままをリフォームしていくようなかたちで使えるんじゃないかということ想定はしてございますが、今後やるにあたって、老朽しています配管関係だとか、電気関係だとか、どうしてもやらなきゃいけない部分だとか、そういうのを優先してやっていくようなことを想定しておりますが、大きくおもてを全部ほぐしてやっていくようなかたちにはならないんじゃないかということ現時点では、我々のほうでは想定してございます。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 今回、熊石中学校に決まったということで、この熊石小学校の今後の予定ですかね。まあ、それもこれからなんでしょうけれども、それは何か動いてることがあるんだろうか教えていただければと思います。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（横田喜世志君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 正直、今回急に熊石中学校ということで決めさせていただきましたので、今後、熊石小学校の活用的な部分については、関係機関等とも検討していきたいというふうに考えてございます。

ただ、状況的にはかなり老朽が激しいということで、ちょっと活用等については限られたものだとかしか使えないのではないかとすることは、そういうふうには考えてございます。

○委員長（横田喜世志君） その他ございますか。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） ごめんなさい。1個だけ。

先ほど現在の児童生徒数が 17、17 ということだったんですけど、6 年後も今から想定されますので、ぜひそこを考えて改修していただきたいというお願いです。以上です。

○委員長（横田喜世志君） そのほか。

○教育長（西田浩人君） 委員長、教育長。

○委員長（横田喜世志君） 教育長。

○教育長（西田浩人君） すみません。私のほうから少し発言させていただきたいんですけども、先ほど令和 10 年度義務教育学校の 1 年目の人数が前期課程 17、後期課程 17 ということで 34 でスタートするんですけど、その翌年には前期が 14 名、後期が 12 名ということで 26 名とどんどんどんどん減っていきます。

それで、一時令和 9 年、令和 10 年、令和 11 年と熊石地区では、1 名ずつしか生まれていないような状況があったり、それからここ 2 年ほどは生まれてないという、そういう状況も我々はおさえております。その上での改修ということは、義務教育学校化ということを常に考えております。

まだまだ悩みは、たくさん我々も抱えていてぜひこのこういう場ですね、ご意見をいただきながら進めていきたいというふうに考えておりますので、今後もお力添えをいただきたいと思います。と思っています。

○委員長（横田喜世志君） ほかがございますか。

○議長（大久保健一君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 議長。

○議長（大久保健一君） 衝撃的な話を聞いて、まあ 6 年後になるのかどうなのかわからないですけども、義務教育学校においての教育、集団生活を学ぶ場としてふさわしくなくなってしまうというふうになると、その先にどうしなきゃならないか。

例えばじゃあ、277 号線を 50 分かけて通学させなきゃならないのか。はたまた乙部なんかと、近隣町村と連携しながら組合のようにやらなきゃならないのかっていうのは、もう今からそれを見据えて動いていかないと間に合わなくなるんじゃないかなっていう。今回のこの義務教育学校は、やむを得ないなって思う一方で、なんかここまでなるのは、もうちょっと早くわかってたはずだよっていう気持ちもどこかであるわけで。

単純に個人的に考えると、じゃあ、この 10 数億円かけた、まあ 10 数億円の規模になるかどうかかわかんないけど、数億円かけた規模で、一体この校舎は何年使えるんだろうということは、すごくね、税金を使う側としては考えなきゃならないとは思うので、大変申し訳ないですけど、今の段階では、これで相当忙しいとは思うんですけど、この先どうしなきゃならないかっていうのを同時進行で考えていただきたいな。

まあ、もちろん考えてはいるんでしょうけど、ちょっと思い切った手っていうのは、絶対必要になってくる時期が来るのかなとは思うので、そこら辺何か考えがあれば教えてください。

○教育長（西田浩人君） 委員長、教育長。

○委員長（横田喜世志君） 教育長。

○教育長（西田浩人君） ありがとうございます。私も毎日考えております。毎日というように頭から離れないような状況なんですけど。先ほど言ったようにですね、令和 9 年度の子

供が1人、令和10年の子どもが1人、令和11年の子供が1人ということで、この子供たちが中学校の段階になったら、今で言うところの中学校1年生1人、2年生1人となるんですよ。これではですね、中学生としての教育の質の確保というのはできません。

それで、今のうちからですね、例えば、来年度から修学旅行なんかは八雲中学校と一緒に行くとかですね、そういうことはある程度道筋を立てながら進めております。だから、いずれは中学生は長い時間かけて運ばなきゃいけないんじゃないかということは見通しております。

ただ、小学生を運ぶということはですね、これはなかなか厳しくて、先ほど大久保議員から45分という話がありましたが、折戸のほうから来ることになると1時間を超えるわけです。停まりながらということになると、1時間半近くかかることを想定しております。

そういうことで、それが原因となって学校に行きたくないとかですね。そういうことを恐れておりますことから、小学校は何か何でも残さなきゃいけないかっていう見通しは持っております。お金をかけたくないということなんですけれども、熊石中学校の現在の3階の校舎、水が使える状況じゃないんです。水道が使えない、トイレ使えない。子供たちは、1階2階で生活しております。

ただ、今度小学生のそこに入ってきますので、今度は3階も水が使えるようにしなければならない。それから、中学生の体に合った校舎ですから、小学校1年生がそこを使うためには、階段を少し工夫するとかですね。水の場の高さを工夫するとか、そういうところの改修が予想されます。ということで、少しお金がかかってしまうということです。

小学校のほうを変えたほうが安いんじゃないかということですね、実はこのことは町長とも何度もお話をしてお話を聞いてきたところなんですけど、熊石小学校のほうも5年も新しく建てられているにも関わらず劣化が激しいということなんですよね。

それで、体育館は、もうあと何年ももたないだろうという、そういう見通しも出ております。というような状況で本当に判断の難しい状況であると。何かいい知恵があったら、いただきたいです。

○議長（大久保健一君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 議長。

○議長（大久保健一君） そんな忙しいところ申し訳ないですけども、これは熊石だけの問題じゃなくなっていると思うんですよ。

それで、関口議員なんかもことあるごとに、その学校再編っていう話は出てきているんで、やっぱりその地域の人たちにも配慮が必要だとは思いますが、やっぱり子ども優先で町も先々を見てやっぱり再編っていうのは考えていかなければ、ちょっと大変なことになるので、そこら辺も先を見ながらやっていただきたいと思います。お願いします。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） すいません。もう10時半近いんで、短くしますけど。事業形態、今いろいろな特色を出ることができる時代ではあると思うんですよ。先ほど赤井さんおっしゃったように、熊石ならではの何か特色のあるものの他に、例えばICTを利用したそういう合同事業的な部分ということというのは、今現状でどのような八雲町の中においては行われているとは思っていないんだけど、例えば、八雲なり落部なり野田生でもいいんだけ

ど熊石とデジタルを使った合同事業だなんてそういうことっていうのは、技術的にどうなんでしょうかね。やってるとこあるのか。

○教育長（西田浩人君） 委員長、教育長。

○委員長（横田喜世志君） 教育長。

○教育長（西田浩人君） 実はですね、小学校のほうでは現在もやっております。例えば、浜松小学校、山越小学校、野田生小学校がリモートでつながって道德学習をするということですね。そういうことは行われております。道德って言うのは、子どもたちがいろいろな考え方を交えないとなかなか深まらないというそういう性質がございますので、必要に応じてやっておりますし、それは町内だけではなくて、八雲小学校なんかでは、道外の学校と交流するとかですね、そういうようなことをやっておりますので。これは中学校同士でもそういう活動はできると思います。

ただ、やっぱり実際にリモートではなくて、生で学習するという体験するっていうのは、やっぱりそれにこしたことはないんですけど、リモートを効果的に利用する時代ですので、それももちろんそれぞれの学校では視野に入れて進めております。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） とにかく子どもたちがどこに今いても同じような環境整備というのは、当然違うことであるかと思しますので、積極的にデジタル活用というのは、むしろ熊石のような地域に必要であろうと思しますので、熊石で行われていることが今後、八雲町側ですっかりと活かされるような状況って作っていかなくちゃならない。

八雲町もいつかそういう状況になるんで、先鋭的って言ったらちょっとあれかもしれませんが、積極的なさまざまな事業というものをこの義務教育学校ですっかりやっていきながら、八雲側にも活かしていくようなかたちをとっていただきたいと思いますので、今後もしよろしく願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） 他ございますか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） なければ、熊石義務教育学校改修スケジュール変更についての報告を終わらせていただきます。ありがとうございます。

【学校教育課職員退室】

【熊石国保病院職員入室】

○委員長（横田喜世志君） それでは、報告事項２番目の常勤医師の確保について、熊石国保病院報告をお願いいたします。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君） まずは、おはようございます。７月１日付、熊石国民健康保険病院事務長のほうに異動となりました、石黒と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、説明のほうをさせていただきます。資料1のほうをご覧ください。

この度、常勤内科医師の入職についてをご報告させていただきます。資料記載のとおり、氏名のほうが大島昌輝医師、年齢が55歳、採用年月日につきましては令和8年10月1日、職名といたしまして副院長として採用発令いたしますことをご報告のほうさせていただきます。

大島医師の採用に係る経緯についてですが、当院ホームページのほうをご覧くださいながら、医師募集を閲覧後、電話での問い合わせのほうがございました。6月病院見学及び面談の運びとなりまして、その後に至っております。

令和6年3月までの5年間につきましては、せたな町立国保病院のほうで勤務され、同年4月より現在の勤務地であります、月形町立国保病院へ移られてございます。専門分野は、呼吸器内科ということであります。

お話のほうを先日させていただいたところ、温厚な人柄が伺われ、せたな町での総合診療の経験を活かし、地域医療へ貢献したいとのことでございましたので、当院を希望したという回答のほうがありました。

当院の内科診療の充実と喫緊の課題でありました常勤医師の確保で3名体制の確立と維持を目指すため、このたび採用の決定をさせていただいたところであります。

現在、受け入れ体制の準備を進めているところであり、9月下旬に医師住宅への転居を予定しているところであります。以上、常勤医師確保についての報告といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君）これに、質問のある方がいらっしゃいますか。

○委員（倉地清子君）はい。

○委員長（横田喜世志君）倉地委員。

○委員（倉地清子君）すごく喜ばしいお話だと思って聞かせてもらっています。面談をされたということで温厚な人柄だっという話で、この時って面談は、今の現院長ともされたのですかね。

○国保病院事務長（石黒陽子君）委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君）事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君）6月にお見えいただきまして面談をされた際に現在の院長及び師長、それから前事務長の3名と面談の方をさせていただき、決定のほうをさせていただいております。

○委員（倉地清子君）はい。

○委員長（横田喜世志君）倉地委員。

○委員（倉地清子君）ありがとうございます。これからまた診療体制が変わってくると思うんですけど、ずっと縮小されてきてた診療体制をこれからまた変更していく予定というのは、もう考えてるんですか。

○国保病院事務長（石黒陽子君）委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君）事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君）現在のところ、大島先生のほうとも協議しつつ、10月からの診療体制のほうを構築している次第でございます。

○委員長（横田喜世志君） 他ありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） なければ、常勤医師の確保についての報告を終わらせていただきます。

3つ目、特定技能外国人の入職について、熊石国保病院報告をお願いいたします。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君） それでは、続きまして資料2をご覧ください。特定技能外国人の入職について、ご報告のほうをさせていただきます。

看護補助員は、看護師等の指示のもとに診療等に関する様々な補助的業務や患者さまの療養生活上のサポートを業務とし、看護分野の一員として重要性が増してきております。特に、医療従事者不足が顕著な地域においては、医療機関として重要な存在とされています。

令和6年11月に外国人材の活用についてこの常任委員会でご報告しておりましたが、ミャンマーでの激しい内戦が続いていることにより、海外就労に必要なスマートカードや求人票の発給・承認枠の厳格な制限が課せられ出国できない状況でございました。それに伴いまして、やむを得ず、長期にわたり延期となっております。

この度、ミャンマーからの出国、海外就労が許可されまして、看護補助員として入職したことをご報告させていただきます。

入職された方につきましては、記載のとおりでございます。お名前のほうは、ジンマーサンさん、ニンモーエイさんの2名であります。国籍のほうは、ミャンマーになります。入職日は令和8年8月4日。住所につきましては、お二人で入居され、日々業務に当たっております。

本来であれば、入職前に報告すべきところではありますが、日本への入国日の確定が7月中旬であったことから入職後の報告となりましたこととお詫び申し上げます。

以上、特定技能外国人の入職についての報告といたします。よろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） 報告を終わりました。質問のある方。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 熊石地域にとって、初めてのこれまでも実習技能生というのはありますけれども、初めての外国人研修生ということになるんですよ。そのサポート体制、事務的なものというものは、全て国保病院内の事務方の方があのしておられるのかという。その技能実習や指導というものは、国保病院内でやられておられるということでしょうか。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 熊石地域でのまず外国人の入国というのは、このたび初めてということもございます。

地域として何ができるかということを経験の皆様の方のお願いをして、ご協力のほうをいただいております。町内会、それから、熊石地域のほうには集落支援員という方がおりますので、そちらの方にも生活上のサポートということで依頼をかけております。

基本的には、病院内での業務にあたりましては、看護ないし事務方のほうが生活面でのサポートというのをしている状況ではございますが、現在、八雲総合病院のほうでも先輩にあたります、同じミャンマーからの実習生がおりますので、その方とも連絡を取り合いながら、また、会社のほうとも連絡を取り合い、今後は八雲地域のほうとも、交流を持つような仕組み作りを進めてまいりたいと考えてございます。よろしくお願い致します。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 今世の中ってというのは、たくさんおられるわけではあるんだけど、地域として初めての方ということで、これは当然貴重な人材ということになろうかと思えますし、この後のつながりというものも非常に大事になってくるかと思えます。仕事のサポートする体制も大変でしょうが、生活支援をしていくということは非常に大変なことなんですよね。

その辺というものをしっかりと見ていただきながら、大変なお仕事なんていうのは、僕もちょっとわかっているものですから、ましてや地域として初めてのことで、しっかりと地域としてこの子たちを支える体制というものは、やっぱり構築していただきたいなというふうに思います。

先ほど、事務長おっしゃったように八雲のほうにミャンマーの方もいらっしゃるの、行き来というものを、たまに行えるような状況というものはぜひ作っていただきたいなと思えますので、今後のサポートのあり方というのは、十分に慎重に行っていただきたいなという思いであります。よろしくお願いします。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君） ありがとうございます。まず、本来でいけば、今月入職されまして、今月八雲地域とは、まず初回の交流をもちたかったところではありますが、やはり勤務日の都合等によりまして延期となっております。

今後ですね、年内には最低でも一度はもっていききたいとそういうふうに検討しておりますので、どうぞよろしくお願いします。

○委員（黒島竹満君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 黒島委員。

○委員（黒島竹満君） 特定技能の資格は、ミャンマーのほうで取ってきたんですか。こっちで取るんですか。それとも、取ってきてるんですか。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○国保病院事務長（石黒陽子君） 特定技能の資格は、ミャンマーのほうで取得されております。今後ですね、八雲のほうで看護補助員と勤務をされまして一定経験を積みましたら、日本の介護福祉士のほうを受験する資格があるので、そちらに向けてこのお2人に関しましては、今後努力していくという所存でございます。

○委員（黒島竹満君） わかりました。

○委員長（横田喜世志君） 他にございますか。

(「なし」という声あり)

○委員長(横田喜世志君) なければ、特定技能外国人の入職についての報告を終わらせていただきます。熊石国保病院の皆様、ご苦勞様でございました。

【熊石国保病院職員退室】

◎報告事項についての協議

○委員長(横田喜世志君) それでは、(2) 報告事項についての協議ですが、どうでしょうか。

○委員(赤井睦美君) はい。

○委員長(横田喜世志君) 赤井委員。

○委員(赤井睦美君) 先ほど議長もおっしゃってましたけれども、6年後の学校の在り方。例えば、この間車検切れの車でたった1人をとても大きな車で送っていたという、そういうこともありますので、何でも削減すればいいとは思わないけれども、やっぱり1人にかかるお金ってね、これから削減削減という中で、やっぱりちょっと意識欠けていたんじゃないかなっていう気もするので、もう少しそこら辺をみんなでちゃんと勉強しながら一緒に考えていけたらいいなと思います。

○委員長(横田喜世志君) 他、ございますか。

教育長も言っていたように、知恵があれば皆さんお願いしますということだったんですけどね。今すぐ出ることはないと思うんだけど、文教厚生常任委員会としては、継続的に状況を追いながら、何かいい案でもあればという感じになりますよね。

○委員(関口正博君) まあ、結構他の地域では進んでいる義務教育学校って。ただ見れば見るほど結構大きな規模の5校ぐらいを統合した中での義務教育学校の事例が多いんだよね。

○委員(赤井睦美君) そうなんですよ。

○委員(関口正博君) このくらい小規模な義務教育学校というのは、なかなか事例として出てこないところがちょっとあって。

○委員(赤井睦美君) いなくなるのは、はっきりしてるわけでしょ。

○委員(倉地清子君) 規模感が。そうですね。スクールバスを出してこう集まるっていう感じの規模ならいいんだけど。

○委員(関口正博君) ただ、現状を考えたときには、今の子どもの様子からいって今の状態でスクールバス借りるっていうのは、やはり教育長言うようになかなか大変だろうから、やっぱり熊石としてどうやって活かしていくかということは考えていかなきゃなんないだろうけど。

○委員(赤井睦美君) 町によっては、八雲で言う。それこそさっきおっしゃったように、乙部と合併するとかね。町によっては、ちょっと町を越えて合併したほうが近い場合もあるから、そういうことも私たちよその事例を研究しながらやっていくといいかなと。

○委員(倉地清子君) そうですね。

○委員（関口正博君） 何よりもこれからの八雲町のかたちをどうしていくかっていうのを考えていくべきだから。

なんか、今回見てみて改めて思ったけど、今の八雲町の規模感でも義務教育学校として統合するというやり方ってすごく多くなってきてます。ただ、八雲では一切そういう話っていうのは全然出てないわけで。

結構、何百人規模で義務教育学校を設立するというね。そんななんなんだなと思って。今回改めてちょっと思ったんだけど、そういうあり方も含めて提供していかなきゃなんないのかなと思いますね。

○委員（倉地清子君）ほんとだ。大きい規模ですからね。

○委員（赤井睦美君）熊石の距離がね、やっぱりすごく大きな課題ですよ。

○委員（関口正博君）熊石ならではの教育ね。さっきお話あったように、デジタルが積極的に活用した事業のあり方っていうものも、なんかどうしても教員主体みたいな、教育長。責めたくないから、こういうことは言いたくないけど。どうしても教員主体でそういうことが進んでいるのかな。だったら、子ども本意じゃねえよなっていうことは、ちょっと考えらさっちゃうので。

言葉の節々にね、その教員配置のあり方だとかという部分で決められていってるのかなって。八雲に限らずだけど。この教育現場のちょっと、そういうこともあるのかなっていうのはちょっと感じますよね。まあ、ここを研究していきましょう。この、義務教育学校に関しては。

○委員長（横田喜世志君）その他は、まあ、熊石国保だとか、特に。

○委員（関口正博君）うらやましいよね。うらやましいけど、熊石の国保だから先生は来てくれたわけで。

○議長（大久保建一君）熊石に内科医3人もいて、八雲に0なの。

○委員（倉地清子君）いや、内科2の外科1でしょ。

○委員（赤井睦美君）そうそうそう。八雲に0。

○委員（関口正博君）でも、これによってこれからの熊石の国保病院の中身をちょっとどうなっていくかというのは、これはしっかり、先生が1人増えますことでそこはどういう効果が出るとかっていうのは、これもまた八雲総合病院にも言える部分、重要なことになってくる。

ただ、これまでも熊石国保ではこうやって内科医が増えたこともあるけど、わりかしすぐやめちゃったこととかもあったからね。そこはやっぱりちゃんと見ていかなきゃなんないかなって。

○委員（倉地清子君）そう。八雲総合病院のミャンマー人が10人いるけれども、2人来てもう1人辞めちゃってっていう話も。だから、辞めちゃうっていうこともあるし。

○委員（関口正博君）斎藤さん、このミャンマーの方は8月6日に来たみたいだけど、今回のお祭りって参加されたりとかしたの。

○委員（斎藤 實君）いや、まだ。

○委員（関口正博君）そこまで言ってないんだ。そういう地域の行事にね、積極的に。

○委員（斎藤 實君）そうそう。

○委員（関口正博君） 参加していくようになれば。

○委員（斎藤 實君） 問題はね、言葉がどこまであれかなと思ってるんですけども。

○委員（関口正博君） そういうことは、地域の方々もしっかりやっていただきたいなと思いますんで。

○委員（斎藤 實君） 町内会はね、やっぱり大事にしたいっていう会長さんと会ったらそういう話してました。

○委員（関口正博君） 落部も最初はね、外人入ってきた時は、ちょっともう 30 年も前だけどね。だけど、今となってはもう地域に欠かせない人材になってるから、やっぱりそこは大事にサポートしていただきたいな。

○委員（赤井睦美君） なんか、お子さんも生まれてましたよね。落部、外国人のお子さんも生まれたって。

○委員（寺田広樹君） 初めて見ました。広報のところに英語で書かれた夫婦、初めて見た。

○委員（倉地清子君） 両方外人さんなの。

○委員（寺田広樹君） はい。ローマ字だったかな。

○議長（大久保健一君） あれはこっちでくつついたの。日本でくつついたの。

○委員（関口正博君） 多いのはね、片方が来てて呼び寄せるってパターンも多いんだわ。

○議長（大久保健一君） それ特定でしょ。

○委員（関口正博君） 特定とかで。ここで産む場合には、ちゃんと出産祝い金もらえるんだよね。外国人もね。

○委員（赤井睦美君） そうそうそう。町在住だからね。良いことだ。

○委員（倉地清子君） うまくやっていってほしいですね。

○委員長（横田喜世志君） ということで、見守りつつということになりますけども。良い方向へいくように我々も注視していかなきゃならないということで認識していきましょう。

◎所管事務調査

○委員長（横田喜世志君） それで、（３）所管事務調査、子ども子育て関係事業についての議題でございますが、いかがでしょうか。

（何か言う声あり）

○委員（関口正博君） 要は、効果だよね。効果検証の部分でまだ止まってたんですよ。先ほど担当課からそれぞれまずはお伺いして、ということになるのかな。

○委員長（横田喜世志君） だから、何をお伺いするっていうのもあるし、お伺いもできない。だから、学校教育に対してもさ、さっきもちょっと出てたけど、今後どう考えてるかとかの部分。

この間も例えば、浜松小学校廃校云々っていう話も出てたし、そういうのってどう考えてるかっていう話だった。それを大雑把に聞いてもあのとおりの答えしか出ないと思うんだけど。そこをもうちょっと狭めたというか、突き詰めた感じ。

うちらもそれができる情報も必要だろうし、他の学校教育で出てなくても保健福祉課なりにも問題はあるとは思うんだけど、どこが問題かというところが出ないと、なかなか具体的な問題点は出ないと進められないかな。

○委員（関口正博君） 現状、町独自で行っている国の支援はなくして、町独自で行っている子育て支援政策、町単費で行っているものっていうのは病院ですよ。それと、給食この2つですよ。あとありました。

○委員（赤井睦美君） 保育料減免。

○委員（関口正博君） 保育料は全部になるのかな。3歳児以下。

○委員（赤井睦美君） 3歳からは国がタダにしてるんだけど、0、1、2歳に町が少し補助を出してますね。

○委員（関口正博君） そこに絞って国がやっている施策に関しては、これは国が行っていることなんだけど、町の単費で出しているもの。その効果検証は、それぞれの担当課がどのように考えているのかは、ちょっとお伺いしたほうがいいかな、まずは。

○委員（赤井睦美君） そうですね。

○委員（関口正博君） そこからスタート。それで、今後この制度をどのように運用していくのか。財政健全化ってなったときに、これらの部分についての要は、精査。減額であるだとかということが考えられているのか、ここにかかった中でね、そこら辺もちょっとまずはお伺いしてみるとそこからスタートかな。どうだろうか。

○委員（赤井睦美君） それと同時にもうさっきの熊石じゃないけど、6年後の八雲町の小学校の人数ってもうわかるわけですよ。小中学校の人数。

だから、今後、学校教育として全体見てどうするのかって、地域が騒がないからそのまま行くっていう考えもあるだろうけれども。その時に維持費どれぐらいかかってるのかっていうことも大事だし、そこも同時進行できるかなと思うんですけどね。

○委員（関口正博君） 建物に関して、今特別委員会のほうで精査終わって、これから一つの当然、学校とかの維持費が年間どの程度かかってるのか。

例えば、町民センターの維持費ってどの程度になってるか、ちょっと勉強していけばいいなと思ってるんだけど、そういうのも合わせながら、文厚のほうでは学校のほうの施設統合であるとか。あと、学校の老朽化も含めた今後の改修予定ってしばらくないんじゃない、たしかね。ある程度改修が終わってるから。

でも、維持費がじゃあどの程度かかっているのかは、ちょっと委員会としては抑えていきたいなと思います。ちょっとそこは、委員長・副委員長でお話しさせていただいて、ちょっと担当課にまずはしっかりお伺い。あんまり困るような質問してもしようがないので、絞った中で話をお伺いできるように調べさせていただきたいなと。

○委員（赤井睦美君） よろしくお願いします。

◎その他

○委員長（横田喜世志君） では、（4）のその他何かございますか。

○議長（大久保建一君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 議長。

○議長（大久保建一君） 皆さん見たと思うんですけど、先日報道で北斗市長のクリーンおしまをどうしていくかという報道がなされました。今、八雲町で行けば、代表議員として関口議員と寺田議員を出しています。

それで、多分これから、議会といってもみんなそれぞれの自治体から代表していくから、やれる回数って限りがあると思うんですよ。

ただ、刻一刻とゴミの問題っていうのは、ものすごく重しが重くのしかかってきてて、北斗市長がこの間出した案っていうのは、新築も考えていかなきゃならないし、今使う改修も考えるみたいな話なんで、あまり受け身になりすぎないで、こっちからも積極的に情報収集をしていかないと、代表議員2人にあまりにも負担が大きくなって気がするんですよね。

なので、多分文厚が所管になると思うんで、担当課の環境水道課のほうで積極的にちょっと情報、今、現状どうなっているのかっていうのをなるべく文厚のほうに報告してもらって、議員みんなで情報共有はしておいたほうがいいんじゃないかなと思うんですよ。

だから、それは委員長、副委員長で相談の上、ちょっと担当課と話していただけないかなとは思いますが。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 8月27日ですね。

○委員（寺田広樹君） そうですね、あります。

○委員（関口正博君） 今回の新聞記事に載った部分がおそらくは報告になるんだろうなというふうに思います。

今回の新聞の内容、主要な部分の損傷が認められなかったということもあったと思いますが、そこがあるとないとでは大きな違いで、その部分が傷んでしまっていると、全面改修の道に進まなきゃならないとなれば、数年規模の施設が使えなくなる可能性があるんだということは、僕ら寺田議員とも説明は受けてたんですけど、その部分がなんともないよっていうことなんで、その部分は置いといて、他の要は改修で済ませたほうが早急でなおかつ安価にできるんだろう。今、現状での復旧を目指しますというようなことだったと思います。

その辺に関しては、8月27日委員会が開かれますのでお伺いして、定例会のとき報告できればいいなと思いますが、ただし、いずれにしても数億単位、組合としてもこれからまた支出というのがもしかしたら考えられる可能性もあるのかなと思います。

ただ、今日、向山じゅんさんのLINEとかでも、今後、国としても積極的にサポートしていきますというようなその部分に関しても、こともありましたので、国からも当然さまざまなサポートが出てくるでしょうし、町の負担というものは、なるべくそれぞれの自治体で少なくなるように、我々としてもそれは要求していくことにもなりますので。

ただ、八雲だけが突出してこういうことをやりたいとかっていうこともなかなかできない部分がありますので、そこは報告はしっかりしていきますけれども、ただし、これからのゴミの問題というのは、やっぱり八雲町として一時受け入れの部分でね、考えていかなきゃならない。

今回の火災の原因というものは、これから先も明らかにされていかないでしょうけれども、発火源があって、ガスに引火して爆発っていうのはそうだとしたら、この生ごみの問題っていうのは、自治体それぞれが考えていかなきゃならないことであるし、まだそれははっきりしたことが分からないんですけどね。

ただ、生ごみの問題であるとか、さまざまガスが出る可能性があるものの分別というのが、あとは、その発火源となり得るものの分別というものというのは自治体としてしっかり考えていかなければならないところかなと思いますので、そこはみんなで考えていければいいなと思います。

今は、なんか自動分別装置ってあるらしくて、なんかそういう可能性があるものがボンッと弾かれていくらしいんだよね。ただ、それだってどのくらいするものなのかまでまだ調べていないけど、これからそういう技術もどんどん高くなっているでしょうから、そういう情報も皆さんで勉強していければなと思います。

○委員（倉地清子君） はい。ちょっといいですか。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 勉強不足ですみません。今回、主要な部分が大丈夫だったということでその報道になりましたけれども、変わらず 2033 年に更新は行うっていう記事だったので、その更新の解釈が多分私勘違いしてるのかなと思って聞かせてもらったんですけど、契約の更新かなと思ってたんですけども、新築のことを検討しているということ。

○委員（関口正博君） 完全に、設備全てですよね。今回はそういう仕様だ、なんか排煙のなんだかこんだか、とにかくとんでもない高いものらしいんだ。

でね、ずさんなのは、消化してピットに泡なりなんなり噴射したでしょ。その近くにキュービクルがあって電源装置が全部落ちてしまったとか、かなりずさんな設計にはなってるんだ、そもそもね。そういう火災対応というものが考えられてたんだって。

でも、当時のことだから。でも、そういうものを踏まえて今度の 2033 年というのは、この施設。これは自治体みんなで当然巻き込んだ議論になるんだけどさ。それぞれの町でごみ処理を行うのか、それとも、今までのように広域連合でやっていくのかの決断を自治体が迫られるわけだから、今回は現状をしっかりと戻すということで話は進んでいるんだけど。

令和 15 年か。そこに向けては、自治体として、今後、ゴミをどう対応していくかという議論は、もうそろそろちゃんとしていかなきゃならない。そういうことになると思うんですよ。

ただ、今の流れは、北斗を中心とした組合の維持というのを当然北斗市は求めてくるだろうから、八雲だけが、いい自前でやれやそんなもん、なんてことにはならないでしょうなというところではあります。

○委員（倉地清子君） ありがとうございます。

○議長（大久保建一君） まあ、いずれにしても、普段と違う状況なので、議員 2 人はちゃんとやってくれてるだろうけども、2 人だけじゃなく委員会として積極的に情報は共有するようにしていただければと思います。お願いします。

○委員（関口正博君） 寺田委員、頼みます。

○委員（寺田広樹君） はい。

○委員（斎藤 實君） すみません。南部衛生組合も新築を検討しているんですけども、若干今揺れておりまして、一回今までの計画をちょっと抑えて町長部局で相談を今するという状況になりましてですね。位置、場所といろんな政策、江差が持ち出し以上に大きいんですよ。

それで、やっぱり僕推測するには、今大きい工事、観光の、あれもやるんで、そっちのほどこちとニュアンスぶつかったら、ちょっと町の持ち出し大変だよなということで何年か延びるのか、そのままいくのか。

まあ、財政のほうには決まったら方向性だけちゃんと連絡してくださいよ、とはお願いしてあるんだけど、状況はそういう状況です。だ、もう古いんでやらなきゃないっていうことだけははっきりしているんですね。

○委員（関口正博君）　これから問題になるのは、輸送だと思うんですよ。今、どんどん輸送代金が高くなって、人材増えたからって。それで、南部檜山に関しては、江差道が完成すれば函館と統合したほうが効率的な利用はできるんじゃないか。問題は北部渡島、北部檜山、その扱いはどうするか。

やっぱり運ぶには相当ね、長い時間をかけて運ばなきゃならないよっていうところっていうのは、やっぱり地域としてやっぱり考えなきゃならない。それで統合のあり方っていうのも、今後渡島だけ檜山だけじゃなくて、渡島檜山全体で連携とっていくようなかたちには当然なるんだろうなと思います。いや、ちょっと負担が大きすぎるもんね。ゴミ処理に関してね。

○委員長（横田喜世志君）　ほかに。

○委員（関口正博君）　総務が残ってるからね。

○委員長（横田喜世志君）　話は尽きませんけども、やることいっぱい。それでは、その他でいろいろ出ましたので、その中で、正副で精査して、次の会議に載せたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、令和8年第9回文教厚生常任委員会を終わらせていただきます。皆様、ご苦勞様でございました。

〔 閉会 午前 11時15分 〕